国土交通省 清水港湾事務所 広報紙

みなとしみず

SINCE 1990.6 事務所HP

)国土

国土交通省 中部地方整備局清 水港 湾事 務所



静岡市清水区日の出町7番2号

TEL 054-352-4146(代表)

清水港をはじめ静岡県内の「みなと」の旬な情報をお届けします!~ https://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp

清水港史上で過去最大のクルーズ船 「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」が寄港しました!





8月11日(祝)及び10月2日(月)、清水港に入港したクルーズ船の中でも過去最大のクルーズ船「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」が寄港しました!アメリカの船会社が所有する総トン数169,379トンの大型クルーズ船が日の出ふ頭に着岸すると、まるでビルが建ったかのような迫力がありました。

マルシェやキッチンカーが出店し、8月の入港時には、清水港會のお神輿と静岡若駒會のお囃子で歓迎し、休日ということもあり多くの市民が見物に訪れ、出港まで日の出ふ頭一帯が大いに賑わいました。

乗客は観光バスやタクシーで日本平や久能山東照宮、三保の松原など静岡の名所を訪れ、観光を楽しみました。

清水港では10~11月だけで20隻のクルーズ船の寄港が 予定されています。今後の寄港予定は清水港客船誘致委員のHP(http://www.shimizu-port.jp/)をご覧ください。 清水港客船 誘致委員HP QRコード









お見送りの様子

受賞おめでとうございます ~港湾関係功労者等表彰~

港湾関係事業に貢献された方々の功績をたたえ、「海事関係功労者等表彰式」、 「清水港湾事務所優良工事等表彰式」を行いました。また、青木建設株式会社が、 清水港の工事に対して中部地方整備局長より優良工事表彰を受けました。

【海事関係功労者等表彰】

国土交通大臣表彰

〇永年勤続 有限会社伊豆海洋 宮越正美様

中部地方整備局長表彰

〇永年勤続 大石建設株式会社 戸塚勝則様

清水港湾事務所長表彰

○海をきれいにするための一般協力者

NPO法人Earth Communication様 心がすっきり御前崎で夢拾い様





【優良工事等表彰】

清水港湾事務所長表彰

○優良工事 河津建設株式会社様

○優良工事技術者 河津建設株式会社 土屋陽一郎様

○ 関係協力会社 有限会社平野潜水工業所様 井上工業株式会社様

株式会社新村組様 有限会社福永建設様

高橋自動車工業株式会社様

○ 関係協力会社 株式会社新村組 大畑義之様 技術者

有限会社福永建設 福永 孝広様



くびしょう

久々生海岸に行ってみよう♪

御前崎港久々生海岸では、令和4年度にJブルーク レジット®※を申請し認証を受けており、申請者であ るNPO法人Earth Communicationが、海や自然・環境 への興味や関心を育むきっかけ作りを目的とした、 久々生海岸におけるコアマモ保全のためのビーチク リーン活動、環境学習等を行っています。

今年は、6月4日(日)、7月2日(日)に開催し、普段 は安全確保のため立ち入ることができない久々生海 岸で、生きもの調査を兼ねた観察会を行いました。 海辺のスペシャリストであるEarth Communicationの 川口さんと共に、海にいる生きものを実際に観察す ることで、子どもたちの環境への意識を育みました。

夏の活動は終了してしまいましたが、今後も久々生 海岸で観察会等を行っていきますので、ぜひ足を運 んでみてはいかがでしょうか?

※Jブルークレジット®:藻場や干潟の保全活動により創出したCO2

吸収量を、企業等とクレジット取引すること。

NPO法人Earth Communication Facebook https://www.facebook.com/Earth.Commu NPO法人Earth Communication HP https://earth-commu.jimdofree.com/

NPO法人Earth Communication HP QR⊐-F





川口さんによる海辺の生きもの 解説の様子



海辺の生きもの観察の様子

伊豆西部における海からの防災ネットワークの形成にむけて ~ "初実施"駿河湾フェリー等を活用した海上輸送訓練!~

9月6日(水)、西伊豆地域沿岸部におい て、豪雨による土砂災害発生時に陸路による 支援が困難となる場合を想定し、海からの支 援体制を強化(命のみなとネットワークの形 成) するため、駿河湾フェリー、堂ヶ島マリン旅 客船による緊急物資輸送訓練、被災者移送 訓練及び給水支援訓練を、静岡県、中部地方 整備局、松崎町及び関係機関と合同で実施し ました。

厳しい空模様の中での訓練でしたが、普 段駿河湾フェリーが運航していない松崎港 でも、排水ポンプ車等の災害対策車両の乗 下船が可能であることが実証できた一方で、 潮位及び波浪・風速等の海象条件に大きく 影響を受け、乗下船可能なタイミングは限 られることも確認されました。

今後、伊豆西部に係る命のみなとネット ワーク協議会を開催し、それらの状況や課 題を踏まえた検討を進めて参ります。



支援物資受け渡し訓練





沼津河川国道照明車乗船中 静岡河川排水ポンプ車下





フェリーからの給水訓練

避難者のフェリー移送訓練

インターンシップを受け入れました

7月25日 (火) ~27 (木) の3日間、2名のインター ンシップ生を受け入れました。参加した学生からは 「卒業後の進路決定に役立つとても貴重な経験に なった」「港に関する新たな発見があり、港で働く 人へ感謝の気持ちを持ちたいと思った」等の感想が 挙がり、港湾の業務について知ってもらう良い機会 になりました。引き続き、担い手確保に向けた取り 組みを続けて参ります。



日の出地区で岸壁の改良工事を実施しています

日の出地区では、岸壁の老朽化対策及びク ルーズ船の着岸に対応するため、岸壁の改良 工事を進めています。

現在は、岸壁エプロン部(上部)の舗装な どを実施しています。

本事業により、15万トン級のクルーズ船の2 隻同時着岸が可能となり、日の出地区の更な る活性化・賑わい創出が期待されます。



工事の様子

浜名湖ミナトリング2023に参加しました! ~浜名湖地域の活性化や賑わい拠点の創出にむけて~

7月15日(土)、湖西市の浜名港において「浜名 湖ミナトリング2023」が開催され、当事務所か らも、港湾業務艇「ふじ」を展示するとともに、 ブルーカーボン※をイメージしたヒラメと海草 の入った水槽など展示公開しました。

合計200名近くもの方に、当事務所ブースへ訪 れていただき、同水槽を興味津々に親子ともど も観察していただいたり、「ふじ」についても 色々と質問いただいたりしたほか、「みなと」 そのものについても展示したパネル等で熱心に 勉強されていく親子が見られるなど、市民の 方々と様々な交流が出来ました。

※ブルーカーボン:海域で吸収貯留されている炭素のこと。 アマモ場に多く貯留されており、これら生態系は大気中CO2の 吸収源になっていると考えられています。



ラメの入ったブルーカーボンイメージ水槽を 興味深々で見る子供たち



港湾業務艇「ふじ」について学ぶ親子

「清水みなと祭り」が開催されました

8月4日(金)~6日(日)の3日間、清水の夏 の一大イベントである「清水みなと祭り」が開 催されました。74回目を迎えた今年は、4年ぶり に制限なしで行われ、清水のまちににぎわいが 戻ってきたと感じました。

みなと祭りと言えば、さつき通りで行われる 「港かっぽれ総おどり」。この総おどりに清水 港湾事務所も有志で連を組み、毎回参加してい ます。今回も2か月前から練習を重ね、総勢40名 でみなと祭りを盛り上げました。



港かっぽれ総おどり

★今後のイベント

- 10/28.29 Sea級グルメ全国大会in沼津 ~日本中のみなとまち自慢のグルメが沼津に大集合!~
- ・11/19 田子の浦ポートフェスタ ~乗船体験や飲食ブース、港の仕事体験コーナーが集結!~
- ・11/25 しずおか建設まつり ~職人技や建設産業の魅力が満載の体験ブースが盛りだくさん!~

海とみなとの相談窓口

○○ 全国共通フリーダイヤル

よ くなれ みなと

- 海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- みなとの防災に関すること

その他、海とみなとに関することは

受付時間:9時30分~12時、13時~17時(土・日、祝祭日は除く) 何でもお問い合わせください 携帯電話からもご利用いただけます

■お問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課 TEL 054-352-4148 pa.cbr-shimizukouwan@mlit.go.jp

ご意見・ご感想をお寄せ下さい。

清水港湾事務所では、学校、企業、自治会の 皆様を対象にみなと見学会を行っています。 詳しくは、ホームページをご覧ください

シリーズ「続・富士川水運」: 巴川と共に発展した清水瓦

前回までは、富士川水運の成り立ちや経緯、甲州廻米や瀬戸内塩による清水湊の発展のお話をしてきましたが、今回は、清水湊の基礎になった巴川、その水運を利用して栄え、大正から昭和にかけて「三州瓦」「石州瓦」「淡路瓦」などに次ぐ生産規模を誇った「清水瓦」について御紹介します。

瓦の伝来は、日本書紀によると奈良時代、崇峻天皇元(588)年頃に、百済より建築技術者と共に4人の瓦博士が招かれ、法興寺(飛鳥寺)の建立に携わった際とされています。その後、聖武天皇によって「国分寺建立の詔」(741年)が発せられ、全国に国分寺と国分尼寺を建立する事となります。

駿河国の国分寺は、長い間特定されていませんでしたが、平成 20 年の調査により塔の存在が確認されたことにより、「片山廃寺跡」が駿河国分寺跡と認められました。また出土した瓦の文様により建立は、天平宝字年間(757~765)と推定

されています。

清水区にある「尾羽廃寺跡」は、庵原氏によって片山廃寺跡より古く、7世紀末から8世紀紀 頭にかけて建立された古代寺院跡です。近が らは瓦を焼いたとされる東山田古窯跡群構り っかっています。金堂跡、講堂跡な遺軒 であり、四重弧文軒平瓦」「八葉複弁連華文化の らは「四重弧文軒平瓦」「八葉複弁を であり、当時最新の屋根材であった「瓦」を であり、当時最初に使われた地でもあります。東



尾羽廃寺の瓦 (静岡市所蔵)

山田古窯群から出土した瓦と、地面から型取りされて再現された窯は、静岡市埋蔵文化財センターに展示されています。この瓦ですが、粘土を成型して窯で焼いた「粘土瓦」で、材料になる粘土は、日本平が位置する有度山から巴川流域に広く分布しており、当時はこの地区周辺から採取出来たと思われます。

その後、平安から室町時代にかけての屋根材は、民家では安価で軽量な木材が使われる事が多く、高価な瓦は、寺社、城郭などにしか使われる事がなくなりました。江戸時代初期には、幕府より民家での使用禁止令が出た時期もありましたが、度重なる江戸の大火により、防火対策に優れた「瓦」は、江戸時代中期の徳川吉宗時代には、屋根瓦の使用が奨励されるようになり、武家や商人の屋敷から徐々に普及していきました。

江戸時代末期、嘉永 3 (1850) 年渋川村 (今の清水区渋川) に生まれた渡邊金



明治20年 渡邊金左衛門作の瓦 (渡邊商店所有)

左衛門氏が、清水を瓦の産地へ発展する ではないます。昭和 8 (1933) 年に間 (1933) 年に間 (1933) 年に間 (1933) 年に間 (1933) 年に (1933) 年に (1933) 年に (1933) 年に (1933) 年に (1933) 年に (1934) 年に (1934) 年に (1934) 年に (1934) 年に (1934) 年に (1934) 日間 (1934) 日間 (1933) 年に みなとしみず第 154 号 特別寄稿 文責:山口博史氏

ます。その後、手作業であった瓦製造を、苦心の末に機械化する事に成功。職人を必要としない「渡邊式製瓦機」で製造した瓦の品質は、手作業以上に優秀、しかも極めて安価に量産出来るようになりました。この瓦は全国的にも注目され、後に池上本門寺(東京)、静岡御用邸、修禅寺なども手掛けるようになります。

渡邊金左衛門の次男にあたる杉山徳次郎氏は、瓦の販路拡大に手腕を発揮しました。当時「瓦」自体には、全国的な規格が無く、各地で様々なサイズが作られていました。彼は、画一化した「瓦」を提唱して奔走するのですが、全国的に下、「瓦」自体に規格が無く、また組合等の組織も無かった為、規格化するのが難しい状態でした。大正 12 年の関東大震災に際し、復興のためにも瓦製造業すの組合の必要性を実感し、政府に陳情、大正 13 年 10 月の組合設立に貢献します。組合による販路の拡張、規格の統一、原料の共同購入を導入する事により、それま産した瓦を効率よく消費者に届けるシステムを構築しました。手始めに、それまで規格が曖昧だった清水瓦を縦 25 センチ、横 22 センチに統一規格として、全国販売する事により、建築資材としての利便性を高め、昭和初期には清水港から年間16,000トン、600万枚余りが専用の貨物船によって船積みされるに至りました。瓦は主に関東方面に出荷されましたが、駿河湾を隔てた松崎町には、明治 13 年



清水瓦が使われた重文岩科学校

に建てられた岩科学校にも清水瓦が使われており、現在、館内には渡邉金左衛門が使った"刊"(かねき)の文字が入った清水瓦が展示されています。

戦後の高度経済成長期が追い風となり、 瓦の需要も増加し、昭和30年代の最盛期 には、瓦製造100軒、窯数は270余の規模 となり、瓦の産地である「三州瓦」「石州 瓦」「淡路瓦」などに次ぐ産地になってい きました。

清水瓦は、有度山から巴川流域に広がる 粘土で作られており、材料の採取、加工場、 製品の搬出に便利な能島、渋川地区が中心

となっていました。特徴としては、粘土の違いにより 1,100℃付近の高温で焼かれる三州瓦より低温の 900℃前後の温度で焼かれていた為、窯自体の規模は小さく、農業の傍ら瓦製造を営む家も多かったようです。窯焼きの最終工程時に、「気の、大いう工程を行う事により、瓦の表面を炭素で覆い、ガラス質の釉薬を使う「陶器瓦」と同じような耐久性を持たせた瓦です。燻蒸するに炭系で瓦を焼き作る工程のように、最終工程時に窯の燃料である薪窯の煙突からに大煙で瓦を燻す事で、表面に炭素を付着させます。その際には、空突からにはで、大量に発生する事になります。時間が経つにつれて徐らに全燃焼した黒煙が大量に発生する事になります。時間が経つにつれて徐らに大力で、大量になります。高度成長期と重なり、北土の減少、窯の近代化へのでまから、いつもどこかの窯が小規模とはいえ、連続していままで、その伝統を継承しています。

前回までのシリーズ「富士」水運 (全8回) +続編が気になった方 はこちらから確認できます! (情水港湾事務所HP)

